

Bridal Concierge

無料 & 送料も不要!

ブライダルマガジン
レイ ウエディング



Lei weddingは、ホテル・式場やドレス、ジュエリー、新生活準備まで、結婚準備に役立つ情報が満載のフリーマガジン。登録すれば、最長1年間12回、自宅に無料送付します。

申し込みはカンタン!

ウェブサイトでお申し込みください

<http://www.lei.tv>
阪神版申込フォームへGO!

問い合わせ ☎0120(08)4116
サンケイリビング新聞社 Lei wedding事務局

毎月
15日発行

vol.2

【海外ウエディング②】

「Lei wedding」は「結婚」という言葉が気になり始めたアナタに贈るブライダルマガジン。このコーナーでは、Lei wedding 編集部がブライダルに関する読者の「？」に答えます。今回は、先月に引き続き「海外ウエディング」を取り上げます。

Q1 出発前に入籍が必要って本当？

A. 「ブレッシング」なら入籍済、「リーガル」なら未入籍が条件

日本人向けの海外挙式は「ブレッシング」と呼ばれるスタイルがメイン。あくまで結婚したふたりを祝福 (blessing) するセレモニーなので、事前に入籍しておくことが原則です。婚姻届受理証明書を提示しますが、教会によっては挙式の1カ月前までに必要というところも。

一方、その国の法律に従って挙式する「リーガルウエディング」は、もちろん未入籍が条件。結婚が法的に (legal) 認められるため、戸籍にも「〇〇国式で婚姻」と記載されます。こちらは手続きに少し手間がかかり、取り扱っていない手配会社もあるので、希望する場合はまず確認を。

ちなみに、教会には「チャペル」「チャーチ」があります。チャーチとは神父 (カトリック) や牧師 (プロテスタント) が宗教活動を行う、地域の教会のことで信者以外は挙式が制限されることも。これに対し、チャペルは「礼拝堂」のこと。ハワイやグアムなど人気の高いエリアでは結婚式専用のチャペルも多く、個人の宗教は問われません。

読者の「？」に答えます!

Q2 ドレスや両親の衣装で気をつけることは？

A. 現地の雰囲気に合わせてドレスで特に新婦の父親はフォーマルに

たとえば南国リゾート地でのチャペル挙式に、過度にデコラティブなドレスは不向き。対して、チャーチは信者が通う神聖な場所でもあるので、露出の多いドレスはマナー違反になります。現地の気候や会場のことを事前に確かめることが必要ですが、手配会社はそのあたりのことも熟知しているので、相談してみるといいでしょう。

また、意外と迷ってしまうのが両親の衣装。特に新婦の父親はパーজনロードを歩く大役があるため、たとえリゾート地であってもフォーマルなスタイルで。また母親の場合、国内なら黒留袖ですが、黒はお祝いに向かない色とされる国もあるので、避けるほうが無難かもしれません。色留袖、または明るく華やかな色のワンピースなどがおすすめ。現地のレンタルドレスショップでは参列者用の衣装を借りることができるので、利用するのも手。



ブライダルに関する質問を募集!

Lei wedding 編集部では、ブライダルに関する質問を募集しています。式場や披露宴、婚約、新居、美容、マナー、資金、ゲスト側の質問まで、結婚に関することなら何でもOK。質問は、Leiのホームページ=<http://lei-west.jp/>から受け付け。質問が採用された人には2000円分の商品券をプレゼントします。